

「生誕100年 成田千空展」

記念講演会

俳壇における成田千空の位置づけは、必定のこと年々高まってきているようだ。いま『証言・昭和の俳句』という貴重なインタビュー集が、増補新装版で再刊されようとしているが、この本の編者黒田杏子も、インタビューを受けた十三人の俳人たちのなかでも最も重要なのは成田千空と金子兜太だと語っている。その理由はひとつに、このふたりが優れた戦後俳句の作品群を残してきたということにある。またひとつに、両者とも昭和の俳句史と俳壇史にわたる深々とした洞察眼の持ち主だったということにある。ふたりの言葉の肉体感とでもいうべきものは、兜太の秩父、千空の津軽といった風土の精神とも切り離すことはできない。これは何度語られてもいいことだろう。

■ 演題

「成田千空－風土を超えるもの」

■ 講師

横澤 放川氏（俳句結社「森の座」代表）



日時 令和3年8月21日〔土〕 午後2時～午後3時

会場 弘前市立観光館 多目的ホール

定員 50名（事前申込制、先着順）

*7月21日（水）より申込受付開始。

*日程・会場等は変更になる場合があります。

————— 入場無料 —————

〈お問い合わせ〉 弘前市立郷土文学館（☎ 0172-37-5505）